

ばんけい 教育ほつとにゅーす かわら版

こ みち

教育の小径 No.7



今月の花／カーネーション
花ことば／女性の愛、感覚、感動、純粋な愛情

今月の「今日は何の日」

5月 1日：メーデー、語彙の日
5月 3日：憲法記念日
5月 4日：みどりの日
5月 5日：こどもの日
5月 8日：世界赤十字デー
5月10日：母の日(5月第2日曜日)、コットンの日
5月12日：看護の日、海上保安庁記念日
5月15日：沖縄復帰記念日
5月18日：国際親善デー
5月21日：小学校記念日
5月27日：百人一首の日
5月29日：こんにゃくの日、呉服の日
5月30日：消費者の日、ゴミ(ゼロ)の日
5月31日：世界禁煙デー



北 俊夫先生
国士舘大学教授

「判断力」をどう考えるか

- 判断力は、日常生活のあらゆる場面で必要とされる能力であり、その意味で「生きる力」を形づくる基本能力である。
- 判断する行為は、一定の「基準」によって選択・決定することであり、観察力、思考力、意思決定能力などによって支えられている。

「生きる力」としての判断力

判断するとは、一般に「AとBのどちらを選択するか」「次の行動の仕方をどう決定するか」といったように、「選ぶ」とか「決める」という行為のことであると言われています。わたしたちが日常生活のなかで判断を下すときには、大きく分けて次の二つのタイプがあります。一つは「瞬時の判断」です。その場の状況把握と同時に判断を下す即決のタイプです。いま一つは「熟慮した判断」です。熟慮する時間は一概に言えませんが、判断を下すまでに一定の時間を要するタイプです。いずれのタイプも、状況の把握と一定の基準によって判断が行われます。

判断力は、社会のなかでさまざまな人や事象など望ましいかかわりを創り出していくために必要な力です。わたしたちはだれでも毎日のさまざまな生活場面でつねに判断しながら生きています。特に問題場面に遭遇したときには、適切に判断することが求められ

ます。人生は「判断する」という行為の連続であると言えます。

判断には「基準」が伴う

判断するときには、自分なりの基準が必要になります。判断基準は、一般に次のように設定されます。

- ・「善悪」「優劣」といった尺度。基準に価値が含まれるため、判断が人によって違ってくることもある。
- ・社会通念、一般常識といわれる尺度。価値観の多様化や社会の急激な変化に伴い、判断の結果に違いが生じることがある。
- ・理念や人生観にもとづいた判断。その人の生き方や考え方などの哲学であったり、経験や体験などで培われた見方や考え方であったりする。

ここで必要になってくるのが、「正しく」判断する力です。ここで言う「正しい」とは、次のような二つの意味があります。一つは、結果に対する絶対的な正確さ（判断の内容の善し悪し）です。結果を誤ると、厳しく指摘され

ることもあります。近年価値観の多様化が進行し、絶対的な正しさが曖昧になりつつあります。いま一つは、どのような手順や方法で判断したのかといった、判断にいたった論理性や筋道など手続きにおける妥当性です。

「判断力」を支える能力

判断力を育てるためには、判断する際に求められる具体的な能力を明らかにする必要があります。

その一つは「観察力」です。これは状況や問題場면을把握し理解する力です。事実を正しく把握しなければ、判断も誤ってしまいます。その二つは把握した事実を比較・関連づけながら、その状況の背景などを総合的に理解するために必要な「思考力」です。状況を多面的、多角的にとらえることがより適切な判断に結びつきます。思考をとおして、状況の背景や原因などが見えるようになります。ある状況に出会ったとき、それがどうしてそうなのかが理解できるようになると、その状況に対してどうしたらよいか、その後の対処方法が判断しやすくなります。

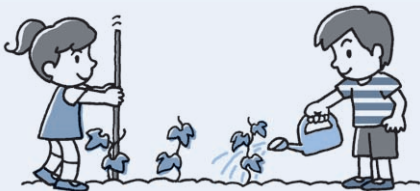
いま一つは「意思決定能力」です。自分はこれからどうするか。どう考えるのか。何を選択するのかなど、自分なりの考えをもち行動の仕方を決定することが、一人一人において求められます。これが判断力の中核です。ここでは合理性、科学性、総合性、公正性、客観性などが要求されます。

生活科の評価の観点に「身近な環境や自分についての気付き」があります。一般に「知的な気付き」とも言われています。生活科には対象に活動や体験をとおして主体的にかかわり、気付かせる内容があります。

学習指導要領を読むと、その内容が「学校の施設の様子及び先生など学校生活を支えている人々や友達のことが分かり」とか、「四季の変化や季節によって生活の様子が変わること」に気付きなどと具体的に示されています。

「分かる」とは理解できることであり、「気付く」とは気がつくこと、感ずることです。生活科の授業に対して「活動あって学びなし」などとたびたび言われているのは、知的な事項に気づかせる教師の役割が十分発揮されていないのではないかということを描いているものです。

生活科においても、習得した知識や技能を活用して問題解決する能力を育てることが求められており、そのためには習得させたい知識や技能を明らかにし、それらを確実に身につけさせることが一層重要になります。



1時間（45分）の終末にその時間の学習を振り返らせることは、子どもたちにその時間の学習成果を確認させると同時に、学習事項の定着を図るために大切なことです。

ところが、授業を参観していると、「今日の学習を振り返り、感想を書きましょう」という教師の指示を多く耳にします。子どもたちは「今日の勉強は楽しかったです」「よくわかりました」といったように、自分の感想を率直に書きます。そこには、どうして楽しかったのか。何がよくわかったのかがきちんと書かれていない場合が少なくありません。

ここでは、単なる感想を書かせるのではなく、その時間の「学習のめあて（学習問題）」に立ち返って、本時の

学習でわかったこと、できるようになったことを書くように指示してはどうでしょうか。これによって、子どもたちは本時に学習した内容の定着状況を自ら振り返ります。

本時のめあては、本時のねらい（目標）と一体に設定されているはずですから、子どもがまとめた内容を本時の評価の対象として活用することもできます。



教育キーワード 家庭訪問

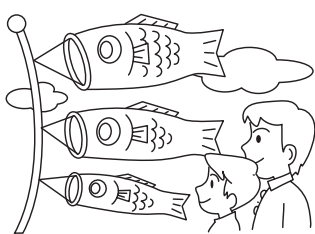
家庭訪問には教師が子ども一人一人の家庭を訪問して、保護者と一緒にその子どもの教育について話し合い、担任と保護者が相互に理解し合い、協力して子どもの教育にあたらうとする関係をつくることにねらいがあります。学校と家庭との相互理解を深めることと、協力関係をつくるのがポイントです。知りえたことをむやみに他人に漏らしてはいけません。守秘義務を厳

守する必要があります。

家庭訪問には、各学校の教育計画に位置づけて年間に一回程度実施する場合と、課題が発生したときなど随時実施する場合があります。

最近では、仕事に就いている保護者が多くなってきたことや、各家庭のプライバシー保護の問題もあり、従来の家庭訪問を見直し、個人面談に変えている学校もあります。

学級通信に使える今月のイラスト



こいのぼり



春の運動会

編集後記

我が家にも家庭訪問の案内がきました。どんな話を聞かれる（聞かされる）のだろう？と、どきどきしながら当日がくるのを待っています。

家庭訪問の期間は下校時刻が早く、共働きの家庭では悩みの種になっているそうです。（K記）

Information (PR)

小学校英語を考へる1冊

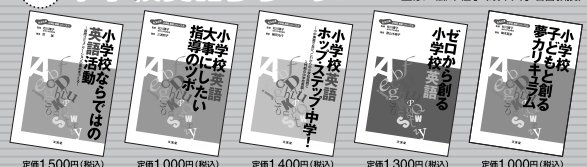
新刊 現場発! 小学校英語

著者/小泉 清裕 (昭和女子大学附属昭和小学校)
定価 1,600円(税込) 228頁 A5判1色



先生必読 小学校英語シリーズ 全5巻

監修/松川 穂子 (岐阜大学名誉教授)



定価 1,500円(税込) 定価 1,000円(税込) 定価 1,400円(税込) 定価 1,300円(税込) 定価 1,000円(税込)